

「市民目線で議論を」 議会改革で目黒氏指摘



目黒章三郎氏

会は当局と車の両輪になつてはいけない。議員は与野党関係なく、市民の多様な意見を吸い上げて議論し、問題解決に当たるべきだ」と訴えた。

【宜野湾】沖縄国際大学総合研究機構沖縄法政研究所の公開シンポジウム「議会改革をめざして」が21日、同大で開かれ、福島県会津若松市議会の目黒章三郎議長が基調講演した。2008年に制定した議会基本条例を踏まえ、市民との意見交換会を元に議員同士で議論し、政策提案する取り組みについて報告。「議

同市議会の議会基本条例は、政策形成に市民参加と議員間討議、説明責任と議決責任を義務付けている点が特徴。目黒氏は「単なる追認機関であつたり、『与党だから賛成』『野党だから反対』の風潮を変える必要があつた。賛否の理由を、市民に説明できる議員でなければならぬと考えた」と条例制定の狙いを説

明した。
市民との意見交換会で出た要望を整理してテーマ設定し、政策討論会を経て、まとまって当局に政策提案する仕組みを実践する同市議会。「議員が与野党や会派を超えて、市民のために活

動している。説明責任を果たそうとする気風も出てきた」と強調した。
その後、県内市町村の4議員が登壇し、シンポジウムを開催。議会改革に向けたそれぞれの現状と課題が報告された。

2012.1.22 沖縄タイムス

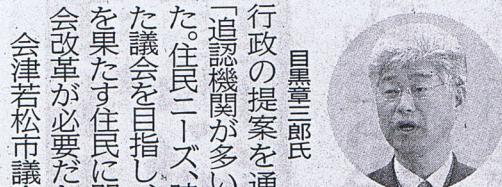
議会改革必要性訴え 会津若松市議長が講演

沖国大シンポ

沖縄国際大沖縄法政研究所の公開シンポジウム「議会改革をめざして」が21日、宜野湾市の同大で開かれた。基調講演した福島県会津若松市議会の目黒章三郎議長は議会機能の現状について、行政から提案を受けるだけの「受動的な議

会」と指摘。賛否に対する議会意思を示すことを示すことをチエックするため、市民の意見を吸い上げて政策形成に反映させ、議会の機能を市民生活に適しているのかを市民に実感させるためにも意見交換会が重要だ」と述べ、議会が直接、住民の意見を聞く場を設ける意義を強調した。東京財團による「神棚に飾るだけ」の議会改革条例を見極める活動を紹介する中で、「市民と

の意見交換や市政報告会を条例で義務付けてないものはない」と指摘した。



目黒章三郎氏

目黒章三郎氏とともに、行政の提案を通すだけの「追認機関が多い」と批判した。住民ニーズ、時代に即した議会を目指し、説明責任を果たす住民に開かれた議会が必要だと訴えた。会津若松市議会は200